

作成 2011年 4月 1日  
改訂 2024年 5月 1日

## 安全データシート (SDS)

### 1. 製品及び会社情報

製品の名称 : スーパークリーン バス・トイレ  
品番 : MJS/SS-23K  
会社名 : 株式会社 LIXIL  
住所 : 東京都品川区西品川一丁目1番1号  
担当部門 : LWTJ タイル事業部 タイル製造部 伊賀上野工場 品質保証課  
緊急連絡先 : 〒518-0022 三重県伊賀市三田 1030 番地  
緊急連絡電話番号 : TEL 0595-21-5114 FAX 0595-21-1601

### 2. 危険有害性の要約

物理化学的危険性 : 火薬類 区分対象外  
: 可燃性/引火性ガス 区分対象外  
: 可燃性/引火性エアゾール 区分対象外  
: 支燃性/酸化性ガス類 区分対象外  
: 高圧ガス 区分対象外  
: 引火性液体 区分対象外  
: 可燃性液体 区分対象外  
: 自己反応性物質及び混合物 区分対象外  
: 自然発火性液体 区分対象外  
: 自然発火性固体 区分対象外  
: 自己発熱性物質及び混合物 区分対象外  
: 水反応可燃性化学品 区分対象外  
: 酸化性液体 区分対象外  
: 酸化性固体 区分対象外  
: 有機過酸化物 区分対象外  
: 金属腐食性物質 区分対象外

健康に対する有害性 : 急性毒性 (経口) 分類できない  
: 急性毒性 (経皮) 分類できない  
: 急性毒性 (吸入: ガス) 分類対象外  
: 急性毒性 (吸入: 蒸気) 分類対象外  
: 急性毒性 (吸入: 粉塵) 分類できない

: 急性毒性（吸入：ミスト）	区分対象外
: 皮膚腐食性／刺激性	区分 1
: 眼に対する重篤な損傷／眼刺激性	区分 1
: 呼吸器感作性	分類できない
: 皮膚感作性	分類できない
: 生殖細胞変異原性	区分 2
: 発ガン性	区分 1A
: 生殖毒性	分類できない
: 特定標的臓器／全身毒性（単回ばく露）	区分 1
: 特定標的臓器／全身毒性（反復ばく露）	区分 1
: 吸引性呼吸器有害性	分類できない

環境に対する有害性	: 水生環境有毒性（急性）	分類できない
	: 水生環境有毒性（慢性）	分類できない

#### <ラベル要素>

絵表示又はシンボル



注意喚起語	: 危険
危険有害性情報	: 重篤な皮膚の薬傷および眼の損傷 重篤な眼の損傷 遺伝性疾患のおそれの疑い 発がんのおそれ 呼吸器系の障害 長期又は反復ばく露による臓器の障害（呼吸器、腎臓）

#### 注意書き

<安全対策>

- : 保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面／防じんマスクを着用すること。
- 粉じんを吸入しないこと。
- 製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
- 取り扱い後はよく手、顔を洗うこと。
- 屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。

〈応急措置〉 : 飲み込んだ場合 : 口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。  
 皮膚(又は髪)に付着した場合 : 直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水で洗うこと。  
 吸入した場合 : 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。  
 眼に入った場合 : 水で15~20分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。  
 ばく露又はばく露の懸念がある場合 : 医師の診察/手当てを受けること。  
 直ちに医師に連絡すること。  
 気分が悪いときは、医師の診察/手当てを受けること。  
 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。

〈保管(貯蔵)〉 : 施錠して保管すること。部外者が触れないような措置をし、保管すること。

〈廃棄) : 内容物及び容器を国、都道府県または市町村の規則に従って廃棄すること。

### 3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別 : 混合物  
 種類 : セメント系目地材  
 成分 : セメント、骨材、顔料

成分名	結晶質シリカ (珪砂)	四三酸化鉄	ポルトランドセメント
化学式	SiO <sub>2</sub>	Fe <sub>3</sub> O <sub>4</sub>	3CaO·SiO <sub>2</sub> 2CaO·SiO <sub>2</sub> 3CaO·Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub> 4CaO·Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub> ·Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub> CaSO <sub>4</sub> ·2H <sub>2</sub> O
官報公示整理番号 (化審法、安衛法)	1-548	1-357	1-194:ケイ酸カルシウム 9-2408:アルミン酸カルシウム 鉄アルミン酸カルシウム 1-193:硫酸カルシウム
CAS No.	14808-60-7	1317-61-9	65997-15-1
含有量	40~50%	0~2%	40~50%

#### 4. 応急措置

- 吸入した場合 : 速やかに新鮮な空気のある場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させ、直ちに医師に連絡すること。
- 皮膚に付着した場合 : 速やかに水で洗い流し、必要に応じて医療処置を受ける。
- 眼に入った場合 : 速やかに清浄な水で 15～20 分間注意深く洗うこと。直ちに医師に連絡すること。水で数分間注意深く洗うこと。
- 飲み込んだ場合 : 無理に吐かせないで、水でよく口の中を洗浄したのち、直ちに医師に連絡すること。
- ばく露又はばく露の懸念がある場合 : 気分が悪いときは、医師の診断及び手当てを受けること。

#### 5. 火災時の措置

- 消火方法 : 不燃物であり、製品による火災は起こり得ない。
- 消火剤 : 不燃物であるため、必要としない。

#### 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項 : 作業の際には適切な保護具を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、粉じん、ガスを吸入しないようにする。風上から作業する。付近の着火源となるものを速やかに取り除く。着火した場合に備えて、消火用器材を準備する。漏出した場所の周辺に、ロープを張る等して関係者以外の立入りを禁止する。こぼれた場所は滑りやすいので注意する。

環境に関する注意事項 : 漏出した製品が河川等に排出され、環境中の生物や水質に影響を及ぼさないように注意する。濃厚な洗浄水は、中和、希釈処理等を行い、直接河川や下水に漏出しないように注意する。

除去方法 : 飛散した粉末は、掃除機等で吸い取って回収する。床面等に付着したものは水道水で洗浄する。

#### 7. 取り扱い及び保管上の注意

- 取り扱い
- 技術的対策 : 労働安全衛生法等の関連法規に準拠して作業する。取扱いについては、できるだけ密閉された装置、機器、または局所排気装置を設置する。皮膚との接触の恐れがある場合には、適切な保護具を着用し、できるだけ風上から作業する。
- 注意事項 : 該当なし

安全取扱い注意事項 : 水と接触するとアルカリ性(pH12~13)を呈し、皮膚及び目に対する刺激性がある。

#### 保管

適切な保管条件 : セメントと同様の扱いとし、湿気の少ない場所にパレット等を敷き、床面より離して保管する。

技術的対策 : 該当なし

### 8. 暴露防止及び保護措置

管理濃度 : 労働安全衛生法・作業環境評価基準 2. 9mg/m<sup>3</sup>  
(普通ポルトランドセメントは 2. 0mg/m<sup>3</sup>)

許容濃度 : 日本産業衛生学会(2006年度版) 第2種粉じん  
吸入性結晶質シリカ 0.03 mg/m<sup>3</sup>  
吸入性粉じん 1mg/m<sup>3</sup>  
総粉じん 4mg/m<sup>3</sup>

設備対策 : 作業を室内でする場合は、粉じん濃度が許容量以下になる能力を有する換気装置を備える。取扱い場所の近くに、緊急時に洗顔及び身体洗浄を行うための設備を設置する。

保護具 : 呼吸用保護具 簡易防じんマスク  
目の保護 側板付き保護メガネ(眼鏡)、ゴーグル型  
手の保護 保護手袋(ゴム)  
皮膚及び身体の保護具 保護服、保護長靴、保護前掛け

### 9. 物理的及び化学的性質

外観 : 微粉末  
沸点 : —  
融点 : 約1350℃(ポルトランドセメントとして)  
比重 : 2.80~3.10  
溶解度 : 水に難溶性  
揮発性 : なし  
pH : 12~13(水と接触した場合)  
その他 : 爆発性なし、水硬性

### 10. 安定性及び反応性

引火点 : 不燃物質  
発火点 : 不燃物質  
爆発限界 : 上限 — 下限 —

可燃性	: 不燃物質
発火性	: なし
酸化性	: なし
自己反応性・爆発性	: なし
安全性・反応性	: 水と反応して固化する。

## 1 1. 有害性情報

急性毒性	: 製品としては該当なし。
局部効果	: 製品としては水と接触すると水酸化カルシウムを生じ、アルカリ性 (pH12~13) を呈し、皮膚及び目に対する刺激性がある。
急性毒性	: (経口) データ不足のため分類できない。
急性毒性	: (経皮) データ不足のため分類できない。
急性毒性	: (吸入: ガス) GHS の定義における固体である。
急性毒性	: (吸入: 蒸気) GHS の定義における固体である。
急性毒性 (吸入: 粉じん/ミスト)	: データ不足のため分類できない。
皮膚腐食性/刺激性	: 水と接すると強アルカリ (pH = 12 13 となる)。また本製品の粉じんは体内の水分と結合して、皮膚と眼に軽度~重度の腐食性火傷を形成することがある。これより区分 1 とした。
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	: 水と接すると強アルカリ (pH = 12~13 となる。また本製品の粉じんは体内の水分と結合して、皮膚と眼に軽度~重度の腐食性火傷を生じることがある。また本製品が眼に滞留した場合、洗い流さないとアルカリ火傷を生じるおそれがある。これらより区分 1 とした。
呼吸器感作性又は皮膚感作性	: データ不足のため分類できない。
生殖細胞変異原性	: 結晶質シリカにおいて In vivo では、気管内注入によるラット肺胞上皮細胞を用いた hprt 遺伝子突然変異試験で陽性、投与方法は不明であるが、マウス肺組織の hprt 遺伝子突然変異試験で陰性、腹腔内投与によるマウス小核試験で陰性、ばく露方法は不明ながら、ヒトリンパ球の染色体異常試験、姉妹染色分体交換試験で陽性、ラット肺、末梢血を用いた酸化 DNA 傷害試験で陽性又は陰性、ラット肺上皮細胞の DNA 切断試験で陽性である (SIDS (2013)、CICAD 24 (2000)、DFGOT

vol. 14 (2000)、IARC 68 (1997))。In vitroでは、哺乳類培養細胞の遺伝子突然変異試験で陽性、陰性の結果、哺乳類培養細胞の小核試験で陽性、陰性の結果、染色体異常試験、姉妹染色分体交換試験で陰性である (SIDS (2013)、CICAD 24 (2000)、DFGOT vol. 14 (2000)、IARC 68 (1997))。以上より、ガイダンスに従い、区分2とした。なお、本物質の遺伝毒性は、当該物質からの、あるいは当該物質による炎症細胞からの活性酸素種に起因すると考えられる (SIDS (2013)、IARC 100C (2012))ため区分2とした。

発がん性 : 結晶質シリカが1%以上のため区分1Aとした。

生殖毒性 : データ不足のため分類できない。

特定標的臓器毒性 (単回ばく露)

: 結晶質シリカが0.1%以上のため区分1 (呼吸器系) とした。

特定標的臓器毒性 (反復ばく露)

: 結晶質シリカが0.1%以上のため区分1 (呼吸器系) とした。

1 2. 環境影響情報 : 濃いアルカリ性の排水が動植物にかかると生態系に影響すると考えられる。

1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物

: 都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に処理を委託する。

洗浄水等の排水は、凝集沈殿、活性汚泥等の処理により洗浄してから排水する。

汚染容器・包装

: 空容器・包装を廃棄する場合は、内容物を完全に除去した後に処分する。

都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に処理を委託する。

1 4. 輸送上の注意

国際規制によるコードおよび分類に関する情報

: 該当しない

輸送の特定の安全対策及び条件

: 運搬に際しては包装に漏れのないことを確かめ、転倒落下、損傷がないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。また、水濡れがないよう保護措置を講じる。

15. 適用法令 :

じん肺法 : 第2条施行規則別表 粉じん作業

化学物質排出把握管理促進法 (P R T R法) : 非該当

労働安全衛生法 : 結晶質シリカ、ポルトランドセメント、酸化鉄

名称等を表示すべき危険有害物 (法第57条、施行令第18条別表第9)

結晶質シリカ、酸化鉄

名称等を通知すべき危険有害物 (法第57条の2、施行令第18条の2別表第9)

結晶質シリカ、酸化鉄

リスクアセスメントを実施すべき危険有害物 (法第57条の3)

がん原性物質 : 結晶質シリカ

皮膚等障害化学物質 (労働安全衛生規則第594条の2第1項)

皮膚刺激性有害物質 : 該当しない

毒物及び劇物取締法 : 該当しない

16. その他

: 記載事項は現時点で入手できた資料・情報・データに基づき作成してありますが、物理化学物質性・危険性・有害性等に関しましては、いかなる保障をなすものではありません。又、注意事項は通常取り扱いを対象としたもので、特殊な取り扱いを行う場合には、十分な安全・衛生・環境対策を実施して下さい。

途中改訂

2014年 2月 1日

2015年 4月 1日

2016年 8月 1日

2016年 8月 18日

2017年 2月 6日

2022年 12月 1日

2023年 3月 29日

2024年 3月 29日